



キンメダイの精子保存研究

当場ではキンメダイの栽培漁業の実現を目標に、種苗生産技術の開発に取り組んでいます。種苗生産を行うためには、成熟した親魚が必要なため、産卵期の夏期には漁業者に協力していただき、親魚の捕獲を行っています。しかし、近年は不漁や捕獲される魚の雌雄の偏りによって、成熟した雌雄の親魚が揃わず、人工授精が行えないことが問題となっています。

そこで、筑波大学下田臨海実験センターと共同で、精子の冷蔵保存の研究を始めました。これまでの研究から、成熟雄から精子を採取して専用の保存液に入れ、冷蔵保存することで、一カ月程度の保存が可能であることがわかりました。

この技術によって、成熟した雌雄が揃わなくても、事前に捕獲した成熟雄から採取した保存精子があれば、成熟雌を捕獲した時点で、速やかに人工授精を行うことが可能になりました。



↑成熟雄から精子を採取する様子
(成熟雄の腹部を圧迫して精子を絞り出し、スポイトで採取する)

漁業士と行政との意見交換会

10月11日に東伊豆町役場会議室にて東部地区漁業士会と県行政との意見交換会が開催されました。漁業士会から高田会長をはじめ20名、県行政等から12名が参加しました。今回は水産庁の担当官によるキンメダイ資源管理についての講演の後、資源が減少する中で、どう漁獲してどう販売していくかについて意見交換が行われました。



↑意見交換会の様子

クエ種苗の放流

10月29日に伊東・熱海地区でクエ種苗の放流が行われました。御前崎市の温水利用研究センターから活魚車で輸送された2000尾の種苗は、伊東港で漁業者により漁船に移されて各地先に放流されました。平均サイズは14cmで一部の種苗には標識が装着されました。50cm・2kg以上までには5年程度かかると言われており、今後は楽しみです。



↑標識を装着したクエ種苗

解説：標識放流：成長や移動などを調べるため、魚に標識を付け放流し、再捕する研究手法。標識の付いた魚を釣った方は伊豆分場への報告をお願いします。

11月の予定 ●7日に下田市内中学生の職場体験が行われます。 ●26日に伊東市で伊豆地域栽培漁業推進協議会が行われます。 ●27日に水産技術研究所の研究発表会が焼津市で開催され、当場からキンメダイの蓄養技術について報告します。 ●フェリーを利用し西伊豆水産物を静清地区へ流通試験します。 ●アワビ類の加入量調査を行います。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。